

50周年記念事業

「実践と研究を接続する」

# 理論VS実践？

一般財団法人 計量計画研究所 (IBS)

毛利 雄一

# 素朴な疑問？

**理論**

VS

**実践**

**= 研究**

**= 実務 (現場)  
≠ 研究**



**研究論文  
になりやすい**

VS

**研究論文  
になりにくい**

**土木計画学 (若手)**

VS

**土木計画学  
(シニア→行政・コンサル)**

**理論研究者は実践 (現場)  
を知らない**

VS

**現場の実務者は理論  
を知らない**

# 何が問題で、何を解決すれば良いか？

理論

実践＝実務（現場）



- 土木計画学研究も50年を経て、理論⇔実践の相互関係が大きく変化
- 過去は**実践(=実務)からの要請⇒理論(=研究)が成立**  
→調査論、データベース、需要予測、評価、 etc.

しかし、現在、土木計画学を取り巻く環境も変化

研究論文になりやすい

VS

研究論文になりにくい

実践研究(論文)は、国内外で評価されない



実践研究(論文)を評価できる仕組構築

土木計画学(大学若手)

VS

土木計画学(行政・コンサル)

- ・国内外の研究論文を成果にするためには、理論研究が重要
- ・実践(=実務)は、研究成果にならない？

- ・難しい理論より現場での実践が重要
- ・理論を実践に役立てないと意味がない
- ・実際の計画・事業の研究サポートが必要

理論研究者は**実践(現場)を知らない**

VS

現場の実務者は**理論を知らない**

理論・実践を知りたいければ、勉強して知ればよい  
問題は、知る方法？、内容が難しい？、理論⇔実践にどのように活用？ 等

# 土木計画学は、今後、何を目指していけば良いか？

理論



実践＝実務（現場）

- 理論・実践それぞれの分野で多様化・複雑化・グローバル化する問題・課題、急速に進歩する技術に対応し、土木計画学(学会活動)は何を行っていけばよいか(何を指していけばよいか)？



## その1: 計画のための目的(目標)・手段の共有化と議論

⇒現状、将来の問題・課題に対応し、今、何を考え、企てるか？

⇒そのために、必要とされる方法・手順は何か？



研究テーマの設定に加えて、その計画とその目的(目標)、手段の議論を！

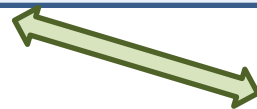
## その2: 理論と実践、それぞれの専門分野を発展させても良い

⇒但し、理論と実践を結ぶ必要が生じたとき、相互に融合するときには、

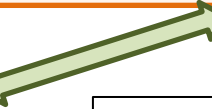
理論



実践＝実務（現場）



理論⇔実践  
結ぶ人(シニア)



土木計画学(学会活動)の役割として

# 土木計画学は、今後、何を目指していけば良いか？

## その3:産官学・異分野の連携は心意気だけではダメ

- ⇒アイデアを持って、人材・お金の発掘・獲得・提供を
- ⇒ビジネスが成立ための条件とは？



**土木計画学(学会活動)は、異分野を含めた産・官メンバーの追加・充実を！**

## その4:将来を見据えた制度設計(国内・海外)を！

- ・次世代の国土、地域、都市、まちづくり...まだまだ心配なことが多々
- ⇒今から、将来を見据えた財源、法律、新技術の研究が重要
- ⇒そのためには、新たなテーマ設定に加え、異分野交流、人材発掘・育成が必要



**新テーマに基づく公募型研究の企画(重要なテーマはお金と人が大事！)**

## その5:創造的な発想と有意義な議論を！(次世代を担う若手研究者・実務者へ)

- ・理論を追求する専門的な研究は重要
- ⇒但し、実践(=実務)からの問いに、適切に回答できる能力と経験を！
- ・理論を理解できない実務者は、理解する努力と質問する勇気を！



**土木計画学(学会活動)は、知らないこと・わからないことを知る有意義な場**